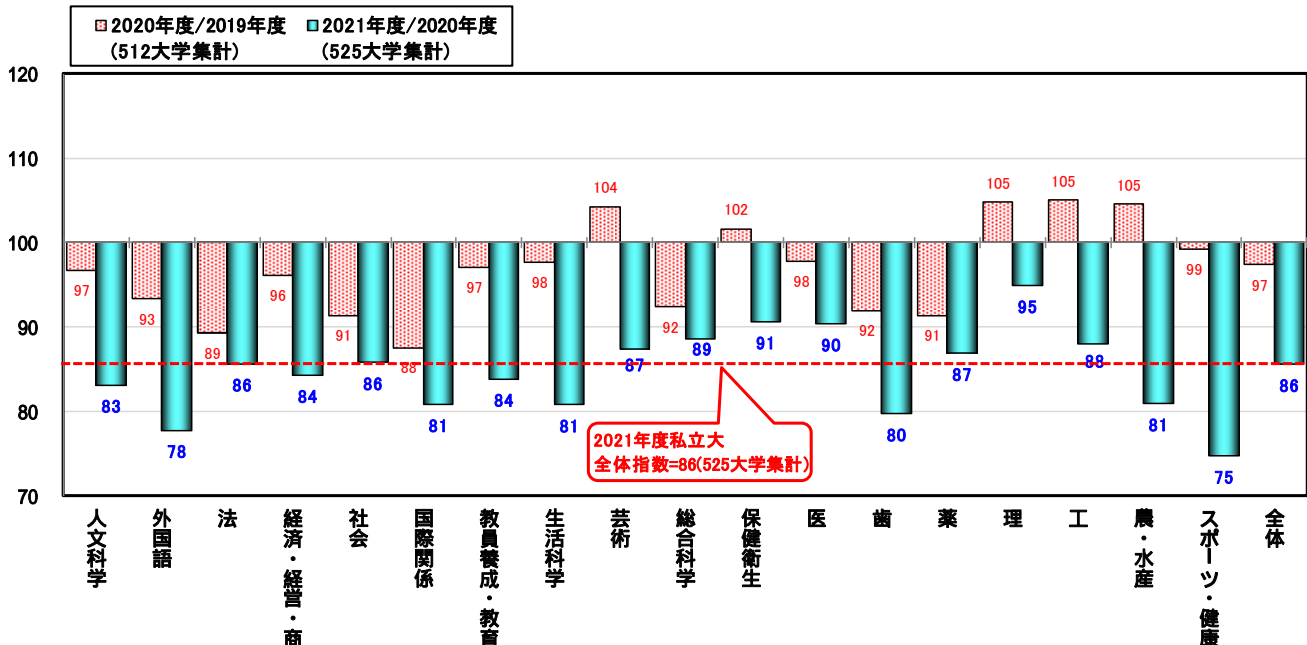


## 2021年度入試状況分析【私立大】

本文中の( )内の数値は、志願者数の前年度対比指数を表します。

### 系統別志願状況・合格状況

志願者数は全系統で減少、人文科学、外国語、国際関係、生活科学、歯、農・水産、スポーツ・健康の減少が目立つ



#### 〔私立大一般選抜 系統別志願状況〕

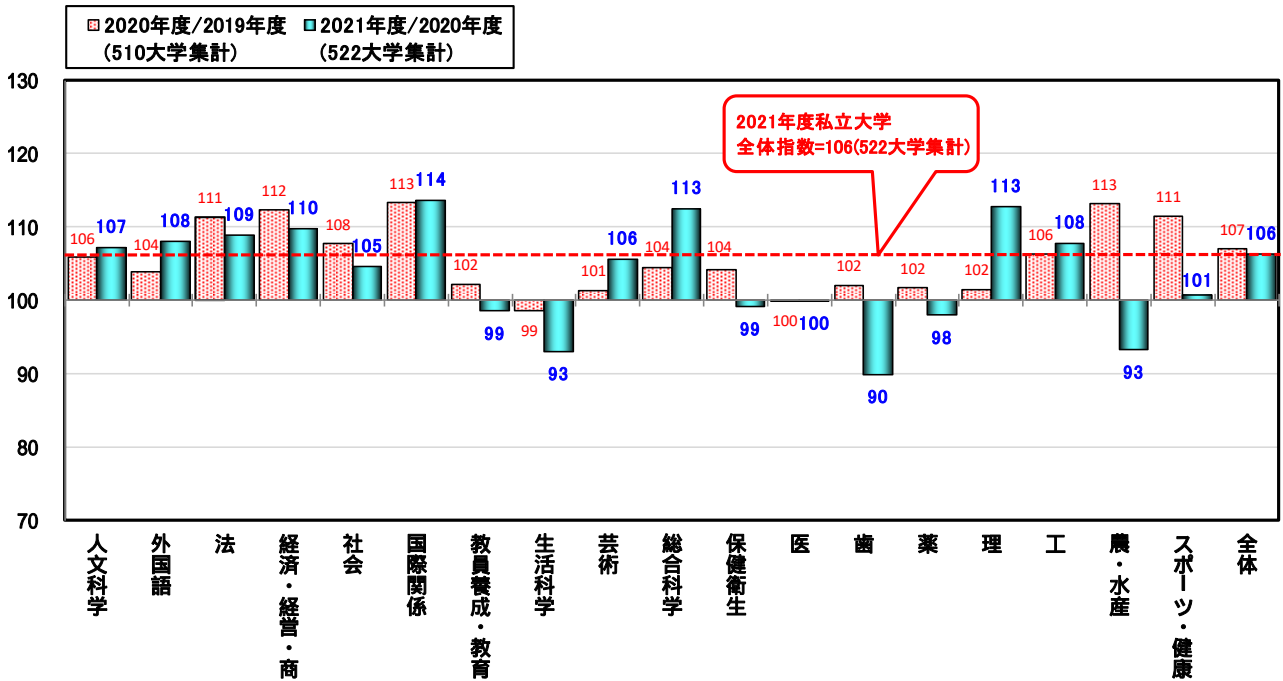
上のグラフは、私立大一般選抜の系統別延べ志願者数の前年度対比指数を2ヶ年分示したものです。

この系統別では、全ての系統が減少しました。その中で、私立大全体指数86を3ポイント以上上下回ったのは、人文科学(83)、外国語(78)、国際関係(81)、生活科学(81)、歯(80)、農・水産(81)、スポーツ・健康(75)でした。それぞれの減少要因は、人文科学は経済状況が悪化する中で就職に直結しないイメージによる人気の低下があり、これに入試変更により神奈川大・国際日本(47)、青山学院大・総合文化政策(53)などが半減前後の大幅減少だったことが影響しました。外国語と国際関係はコロナ禍の影響による海外との交流制限等による勉学や将来への不安、生活科学は女子大の志願者数減少、歯は医からの志望変更の減少、農・水産は高校生が関心を持つ話題が少ないことによる系統への人気低下、スポーツ・健康はオリンピック後の関心や人気の低下などです。

一方で、私立大全体指数86を3ポイント以上上回ったのは、総合科学(89)、保健衛生(91)、医(90)、理(95)でした。特に、減少率が10%以下だった3系統の要因は、保健衛生はメディカル系全般への人気アップと藤田医科大・医療科学、保健衛生での新規募集単位の設置、医は聖マリアンナ医科大(136)の後期日程の新規実施、東北医科薬科大・医(107)、近畿大・医(103)の増加、理は理高文低の流れの中で、上智大・理工(機能創造理工)(物質生命理工)(情報理工)の合計が(126)の大幅増加、関西学院大・理も旧理工の理学系統の学科との比較で大幅増加(126)だったことが影響しました。

## 2021年度入試状況分析【私立大】

合格者数は11系統で増加し、競争は緩和



### 〔私立大 系統別合格状況〕

上のグラフは、私立大一般選抜の系統別延べ合格者数の前年度対比指数を2ヶ年分示したものです。

駿台が集計した私立大522大学の合格者数(106)は増加しました。系統別で見ると、私立大の中で最も募集人員の多い経済・経営・商(110)、次いで多い工(108)をはじめ、全18系統中11系統で増加しました。

志願者数と合格者数の指数の比較では、全ての系統で、合格者指数が志願者指数を上回っており、競争の緩和が見られました。「合格者指数-志願者指数」の値が大きいのは、国際関係(+33)、外国語(+30)、経済・経営・商(+25)でこれらの3系統の競争の緩和が大きかったといえます。これらは、コロナ禍の影響を強く受けた系統だといえます。また、スポーツ・健康(26)もオリンピック・パラリンピック後のこの系統への人気低下を反映して、競争の緩和が大きくなりました。